7

第1分科会　国語教育（文学教育）

主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもてる児童の育成

1．設定理由

本校の学校教育目標は、「心豊かに　瞳を輝かせ　心身共にたくましい児童の育成」である。瞳を輝かせ、一生懸命に勉強する児童を育成するためには、受け身の学習ではなく、主体的な学習姿勢が必要である。また、自分の考えをもち友だちと伝え合うことができれば、さらに自分の考えを深めたり、友だちと意見を共有したりすることができると考えた。本校の児童は、国語科の関心意欲は高いが、文章を読み取る力や伝え合う力が弱い。まずは自分の考えをもつことができ、主体的に読もうとする児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

2．研究仮説

仮説1：児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定することで、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

仮説2：導入を工夫したり、交流活動を取り入れたりすることで、自分の考えをもつことができるだろう。

3．研究内容

○児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

○目的意識、相手意識を明確にした単元構成

○読書や音読、新聞を活用した学習の充実

○小中連携教育「みなみの学びモデル」に沿った学習過程

4．結論

○魅力的な言語活動を設定することで、読む必要感が生まれて主体的に活動できた。

○目的意識を設定（ゴールを設定）することで、読む活動が積極的になった。児童がやりたいことをもとに設定すると、とても意欲が高まった。

○継続的な活動によって、学習の仕方がわかり、読む力がついてきた。

○教員モデルを導入に提示することで、ゴールのイメージがしやすくなっていた。

○交流活動によって、自分の考えをもつことの必要感が生まれ、児童一人ひとりの自信にもつながった。

印旛支部
八街市立笹引小学校
鈴木　美和子
髙橋　　賢司

研究主題

主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもてる児童の育成

1　主題設定の理由

（1）　学習指導要領から

国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」としている。新学習指導要領においては、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成を目指し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を設定している。

正確に理解する能力と、適切に表現する資質・能力は、連続的かつ同時的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。そのため、まず、主体的に様々な活動に取り組むことで理解をし、自分の考えをもつことができ、そして読みを通してもった自分の考えを書いたり、伝えたりすることを繰り返し行うことで、このような「国語力」を身に付けることにつながると考えた。

（2）　本校の教育目標から

本校の学校教育目標は、「心豊かに　瞳を輝かせ　心身共にたくましい児童の育成」である。目指す児童像を「明るくやさしい子」「一生懸命勉強する子」「元気で頑張る子」とし、日々努力をしている。瞳を輝かせ、一生懸命に勉強する児童を育成するためには、受け身の学習ではなく、主体的に学習に取り組むことが大切である。また、自分の考えもち、それを表現することで、友だちと伝え合うことができれば、さらに自分の考えを深めたり、友だちと意見を共有したりすることができ、心豊かに瞳を輝かせ、一生懸命勉強する児童へとつながると考えた。

（3）児童の実態から

本校は、平成３０年度、児童数　１３５名で全学年単学級（６クラス）と特別支援学級（２クラス）の小規模校である。クラス替えが無いため、友だち関係を築きやすい面があるものの、切磋琢磨する気持ちをもちにくいところが問題点である。素直で明るい児童が多いが、人間関係力は高いとはいえず、自分の気持ちを伝えたり相手のことを考えたりすることが苦手な児童が多い。地域性として、市街地からやや距離があるため、放課後に学習塾や習い事に通う児童は少なく、宿題以外の家庭学習を行う児童も半数程度である。学習に対する保護者の意識は、高いとは言えない。

以上より、児童の関心がもてるような言語活動を設定し、自分の考えを話したり、書いたりして、主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもつことができる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

2　研究仮説

（1）仮説1

児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定することで、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

〈手立て〉

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

・児童の関心や経験をふまえ、「読む活動」への必要感につながるような言語活動を設定

・つけたい力を明確にし、その力をつけるために有効な言語活動を設定

② 目的意識、相手意識を明確にした単元構成

・児童に学習のゴールを意識させ、見通しをもった学習計画を立てさせる。

・「何のために」「誰のために」という目的意識、相手意識を明確にさせる。

③ 読書や音読、新聞を活用した学習の充実

・朝の読書や、読書カードを使って、読書の充実を図る。

・家庭学習カードを活用し、毎日音読練習をする。

・新聞を活用した学習を積極的に取り入れる。

（2）仮説2

導入を工夫したり、交流活動を取り入れたりすることで、自分の考えをもつことができるだろう。

〈手立て〉

「みなみのまなびモデル」に沿った学習過程

① ＜導入＞　導入の工夫

・前時の振り返りから本時の学習のめあてを明らかにする。

・単元のゴールを目指して、本時で何をするのか明確にする。

② ＜自分の考え・意見交流＞

児童が一人でじっくり考える場面とともに、他者との交流の場面

・思考の可視化（サイドライン、付箋紙、ホワイトボード、タブレット、などの活用）

・板書の工夫（思考ツールの活用など）

・発問の工夫（交流を深めるための発問、ファシリテーターとしての発問）

③ ＜ちょいたしタイム＞　自分の考えの再検討

・ノートの工夫（付箋紙、思考ツールをつかって）

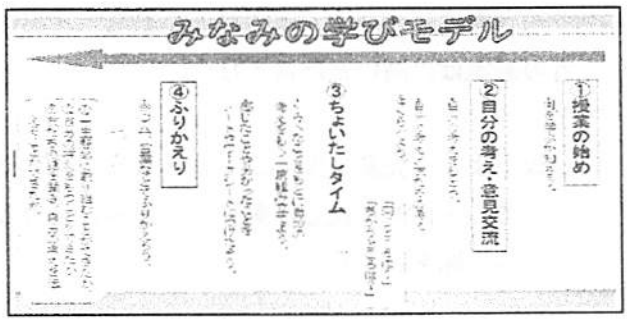
・友だちとの交流を自分の考えに結びつける工夫

（ワークシートの工夫など）

④ ＜ふりかえり＞　自己評価

・振り返りシートの活用

・評価の明確化



平成30年度　笹引小　国語科　研究基本構想図

実態

教科としての関心・意欲・態度は高く、読書も好んでいるが、特に説明文の読み取りや、書くことを苦手とする児童が多い。また、相手に伝えることが、あまり得意ではない。

主題

主体的に読む活動に取り組み，自分の考えをもてる児童の育成

仮説

仮説１　児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定することで、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

仮説２　導入を工夫したり、交流活動を取り入れたりすることで、自分の考えをもつことができるだろう。

手立て

＜仮説１＞

①児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

②目的意識、相手意識を明確にした単元構成

③読書や音読、新聞を活用した学習の充実

＜仮説２＞

「みなみの学びモデル」に沿った学習過程

① 導入

② 自分の考え・意見交流

③ ちょいたしタイム

④ ふりかえり

目指す児童像

国語が好き！もっと学びたい！わかりたいと思う児童

友だちと交流して，自分の考えを持つことができる児童

3　研究内容　実践例

＜１学年＞　むかしのおはなしをたのしもう『天にのぼったおけやさん』

○何ができるようになるか～単元を通して，何を身に付けさせたいのか～

・物語の場面の様子や登場人物の様子や気持ちを意欲的に読めるようになる。

・友だちとの交流を通して自分の考えを深めることができる。

○どのように学ぶか

～どんな手立てを行うか～

・「パネルシアター」で意欲付け

・２年生へ発表することを

ゴールに設定

・台本を使って可視化

＜２学年＞　「レオ＝レオニ作ひんてんをひらこう『アレクサンダとぜんまいねずみ』

○何ができるようになるか～単元を通して、何を身に付けさせたいのか～

・順序に気を付けて読むことができる。

・あらすじをまとめて、紹介できる。

○どのように学ぶか～どんな手立てを行うか～

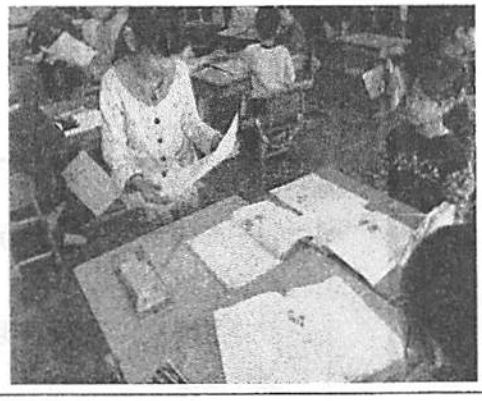
・なぜなぜ読法

・心に残った一文と絵で、保護者に本の紹介

をすることをゴールに設定

・児童の実態から、似た意見同士で少人数

グループで活動



＜３学年＞　物語をしょうかいしよう『わすれられないおくりもの』

○何ができるようになるか～単元を通して，何を身に付けさせたいのか～

・心の動きを考えながら読むことができる。

・物語の魅力を紹介するために、短い紹介文を書くことができる。

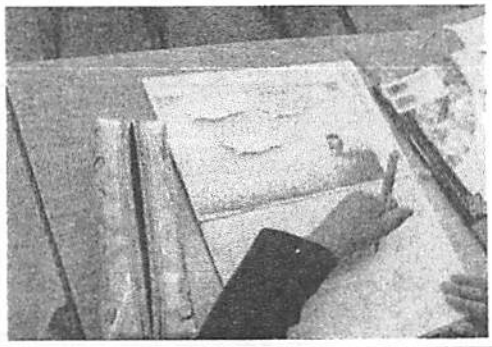
○どのように学ぶか～どんな手立てを行うか～

・なぜなぜ読法

・紹介文を帯にして４年生へ伝えることを

ゴールに設定

・共有する時間を十分にとった。



＜４学年＞　わかったことを説明しよう『花を見つける手がかり』

○何ができるようになるか～単元を通して、何を身に付けさせたいのか～

・説明文の文章から、大事なことが読み取れる。（結果と結論，事実と意見を区別させる）

・書くことに慣れる。

○どのように学ぶか～どんな手立てを行うか～

・オリジナル図鑑を作りたいという児童が立てた目標をゴールに設定

・ワークシートの工夫（思考ツール）

・文章構成図を活用

＜５学年＞　人物の心情を想像して，物語の続きを書こう『いつか，大切なところ』

○何ができるようになるか～単元を通して，何を身に付けさせたいのか～

・登場人物の心情の移り変わりを、心情表現から読み取る。

・登場人物の性格や状況をもとに、物語の続きを書く。

○どのように学ぶか

～どんな手立てを行うか～

・心情曲線に表す。

・付箋紙を活用して、気持ちの動きを読み取る。

＜６学年＞　興味のある人物をしょうかいしよう『伊能忠敬』

○何ができるようになるか～単元を通して，何を身に付けさせたいのか～

・伊能忠敬の思いを深く捉え、自分の生き方について考えることができる。

・主人公が、どのような人物か捉えることができる。

・どのような考えで、どのようなことをしたかを整理することができる。

・自分との共通点や相違点を比べながら読む。

・自分が興味をもった人物について紹介することができる。

○どのように学ぶか～どんな手立てを行うか～

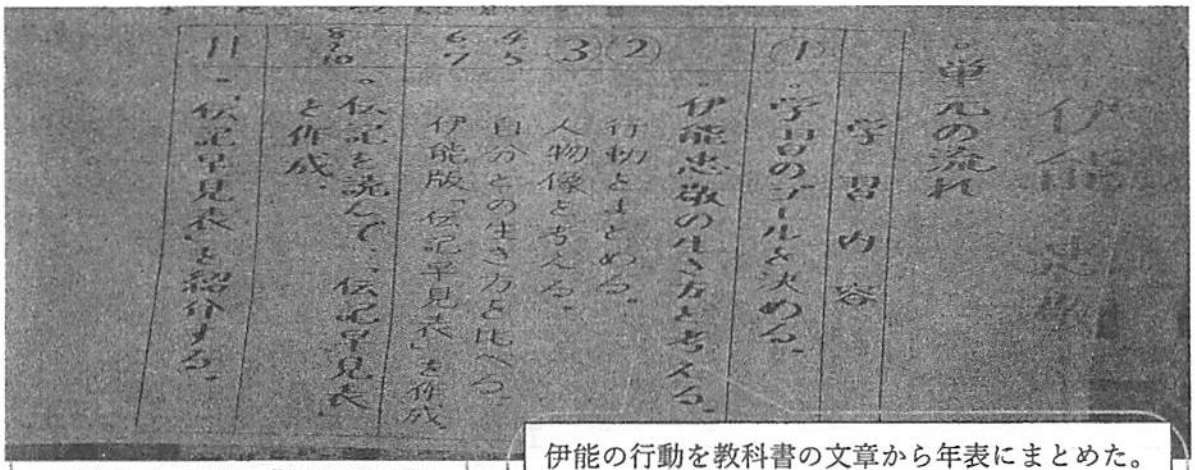
・「伝記早見表」を作成することを目的に、伝記を読む。

・読み取る方法として、行動を年表にまとめた上で人物像や思いを読み取っていく。

・ペア・グループ交流を充実させ、自分の考えを結びつける。

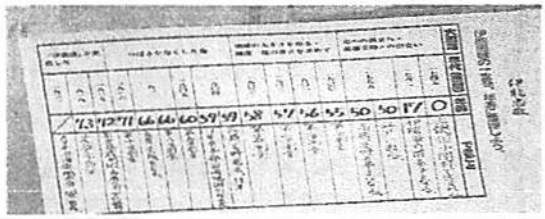
○6学年の実践の様子

【単元の流れ】



学習のゴールは、『伝記早見表』を図書室に残すこととした。
伊能忠敬の読み取りを全体で行った後に、自分の選んだ伝記を読み、まとめていった。

伊能の行動を教科書の文章から年表にまとめた。

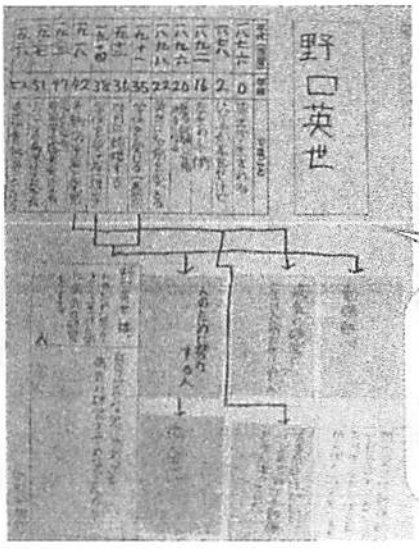


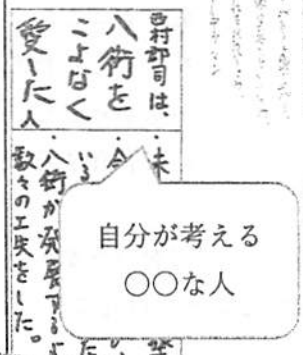
【伝記早見表】　教員モデルを作成し、ゴールの可視化を図った。

↑（表）偉人の名前と自画像

行動を年表にまとめる

（裏）→





自分が考える
○○な人

行動（年表）から考えられる人物像を付箋紙に書く。

★付箋紙の活用…青：行動(文章)から考えた自分の考え
黄：自分が考えた人物像
（伊能忠敬）…青：行動（文章）からの自分の考え
赤：交流後に考えた人物像

○4学年の実践の様子

＜4学年　国語科＞

『ひとつの花』

○ゴールの設定を「本の紹介」にし、廊下に掲示（３００字程度の文章）。教員モデルあり。

○単元が始まったころに、戦争関連の本を３０冊ほど司書さんにお願いして学級に置き、自由に読める環境をつくった。

戦争について関心をもたせたかった。

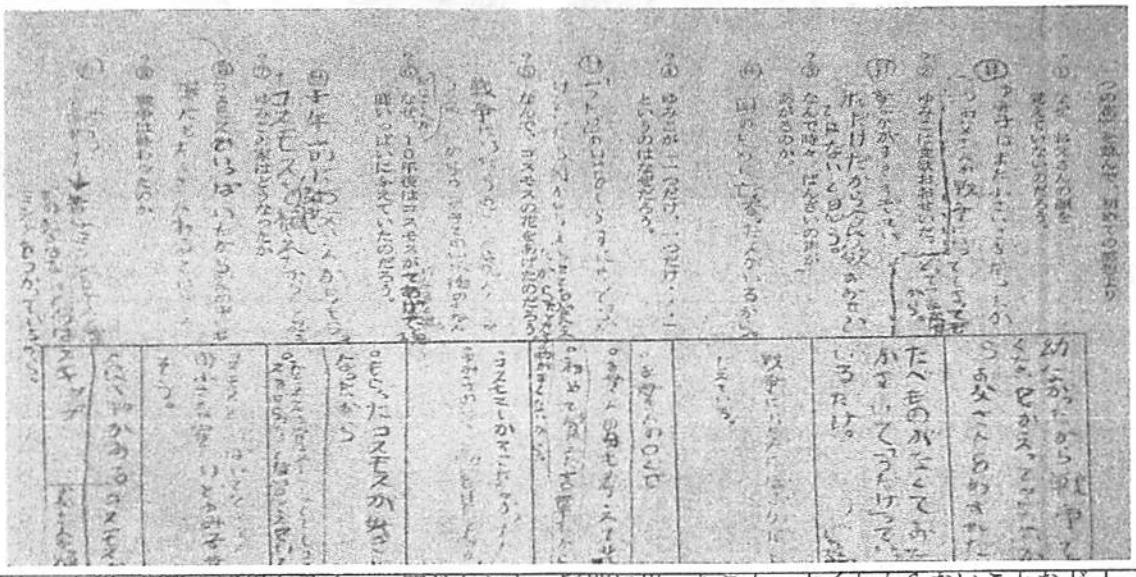
○要旨のとらえ方（一時間扱い）

① どんな主人公が
② どんなできごとで
③ どのように変わったか

児童から出た言葉
① わがままな，ちょっと幸せな…など
② 戦争で，コスモスをもらって…など
③ 優しい，わがままじゃなくなった…など

おおまかに捉えることができた。

○なぜなぜシリーズ



① 初発の感想を書く。→感じたこと，疑問に思ったこと，よくわからないことなど
② 疑問を８つにしぼってワークシートにする。
③ 文章を読み，自分の考えを書く。
④ 話し合う。（今回は全体で。グループ活動を入れても◎）
⑤ 自分の考えをまとめる。

自分の疑問と、教師がおさえたいところを読み取ることができた。

『ごんぎつね』

○教科書を縮小コピーしたものに、自由に書き込みをして一冊の本になるようにした。

○おおまかにつかむ（読む）ことと、大事なおさえたいところは全体で学習を進めた。

『うみがめの命をつなぐ』
→『不思議図鑑をつくろう』

○書くために読む。
○パンフレット型にすることで原稿用紙１枚分（要約）にまとめる。
○テーマを３つにしぼり選択させる。
○「オリジナル不思議図鑑」を作成。

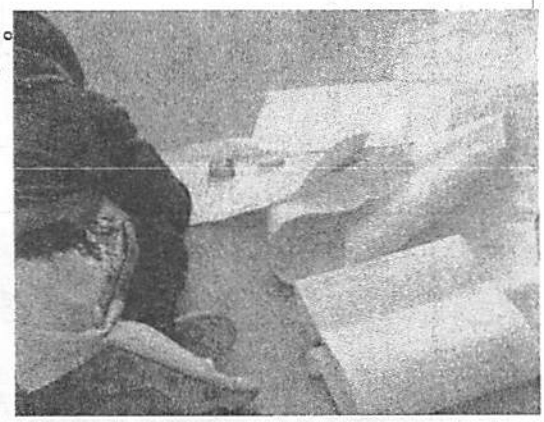
<4学年　総合的な学習の時間>

<総合的な学習の時間>

○掲示物などで意図的に書く機会を増やした。

○原稿用紙に5分でふりかえりを書かせた。
→文章化することでアウトプットを促した。

○1年間分を1つにまとめ，巻物にした。



<全校取り組み　読売ワークシート>

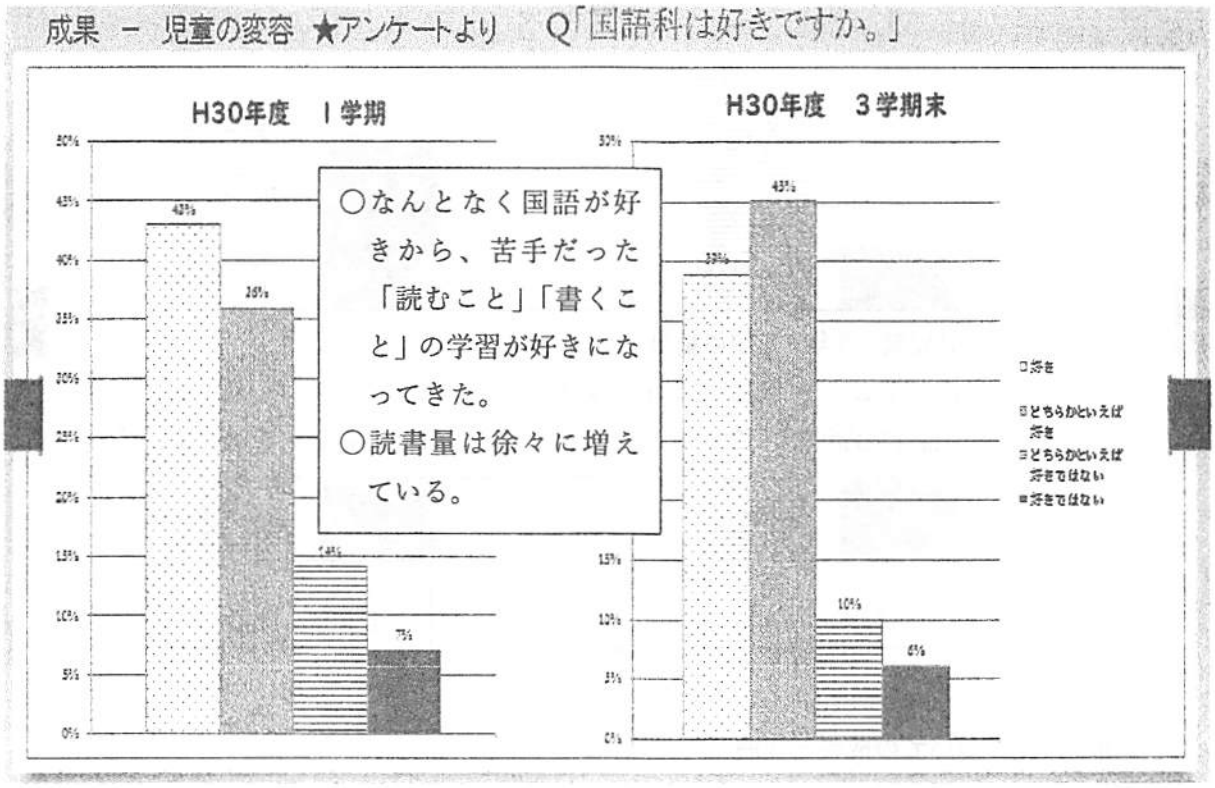
○読売新聞社に年度当初に申し込みをすると、毎週水曜日にメールで届く。
○新聞記事からワークシートが作成されている。
時事問題、季節のことなど５種類程度。文章から大事な言葉を抜き出す力や、全体を要約する力、関連した言葉の広がりなどの力がついた。
○スキルタイム１０分で実施後、教室に掲示していった。

<全校取り組み　自学カードの活用>

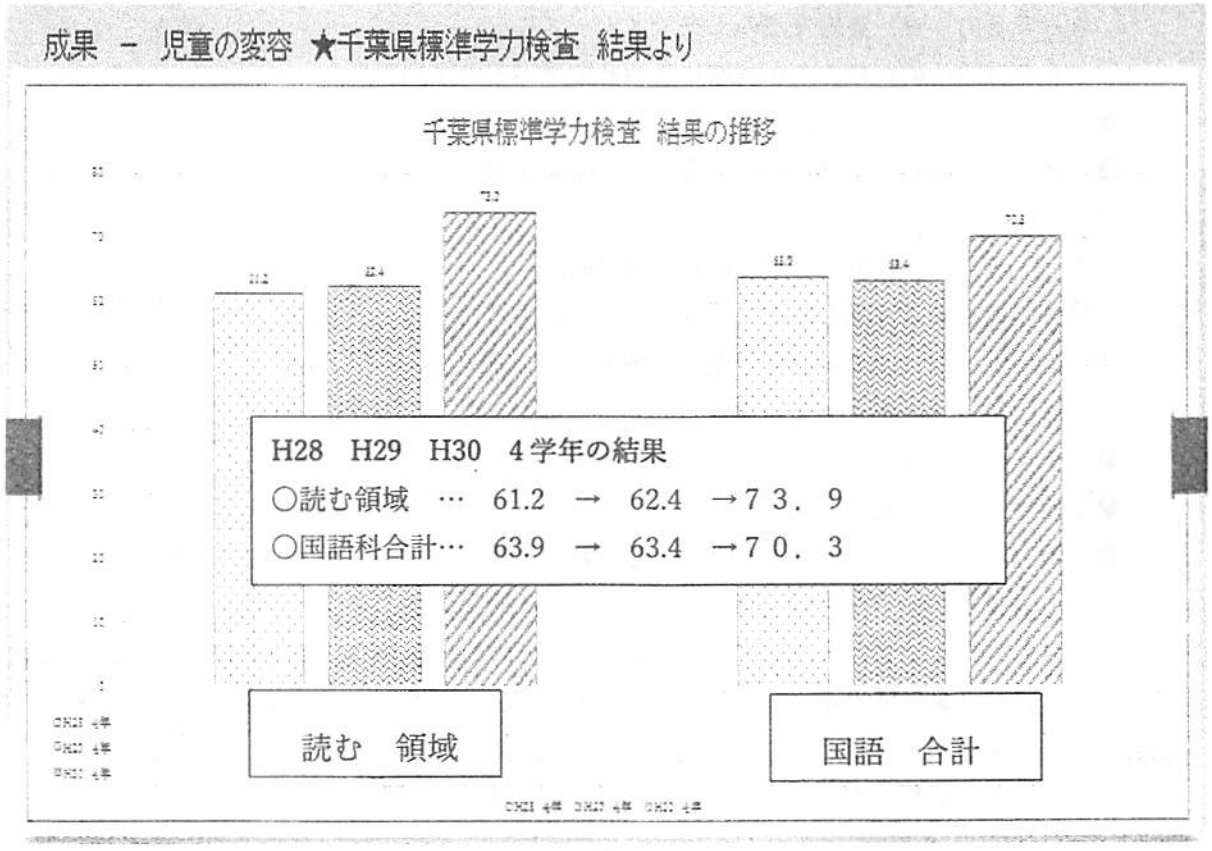
○家庭学習の定着のために活用。
○年度初めに保護者向け文書（各学年で身につける学習内容などを提示）と、児童用「家庭学習の約束」カードを配布した。

5　成果と課題

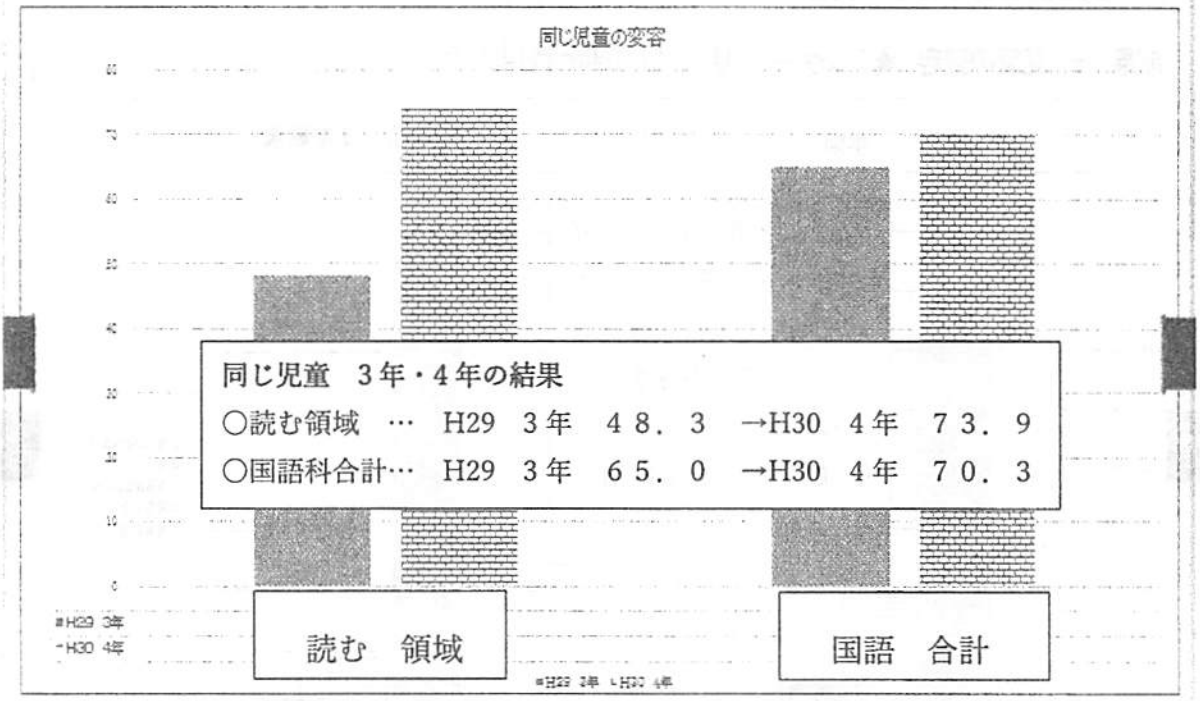
（1）　実態調査より児童の変容



（2）　千葉県標準学力検査結果より児童の変容



成果 － 児童の変容 ★千葉県標準学力検査 結果より



（２）研究仮説についての成果と課題

＜仮説１＞

○目的意識を設定することで読む活動が積極的になった。

○魅力的な言語活動　→　読む必要感が生まれた。

○読み取る力　→　要約方法の工夫でスムーズに。

○どんな言語活動があるのか実態に合わせて選べるとよい。

●すべての単元で言語活動を設定することは難しい。

●主体的に読めたか基準や具体的な姿を明確にすればより成果をあげられたのではないか。

＜仮説２＞

○導　　入　→　教員モデルの提示が効果的。

○自分の考え→　意識して取り組み、意欲が高まった。

○交流活動　→　個人の自信や発表の練習につながる。

○交流活動　→　考えをもつことの必要感にも。

●考えを伝えあう力がより必要。

●交流の仕方の工夫。

●交流ののち、自分の考えに結びつける流れの改善。

「主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもてる児童の育成」を目指して研修を進め、自分の考えをもつことができるようになってきた。これからはそれをアウトプットできるように、思考力や表現力をつけさせるためにはどんな手立てが有効かを研究していきたい。